

京大アジア・アフリカ塾2022

ASEANの現状と未来
～京大研究者からの提案～

今年の「京大アジア・アフリカ塾」はASEANをテーマに4回連続で実施します。多様な言語や政治体制、文化等を持つ10か国が加盟し、急成長を遂げてきたASEANと京都大学の結びつきは強く、昔から多くの研究者たちが地域に深く分け入り活動を行ってきました。

本講座では、多くのASEAN関連の京都大学研究者の中から、4つの社会課題に取り組む12名の研究者がピッチ方式で登壇。COVID-19による混乱を経て持続可能な安定成長を目指す時代に入ったASEANで、今後どのような協創を産学連携で進めていけるのか。新たな知見を得る機会となっていますので、是非ご参加ください。なお、各回終了後のアンケートのご希望に応じ、個別オンラインミーティングを後日設定予定(産官学連携に関するもののみ、希望者多数の場合は抽選)。



第1回 「カーボン・ニュートラル」

日時 2/24 木 15:00～16:20

※申込締切：2/17 15:00

第2回 「高齢化社会」

日時 2/28 月 15:00～16:20

※申込締切：2/21 15:00

第3回 「デジタル化とその影響」

日時 3/7 月 15:00～16:20

※申込締切：3/1 15:00

第4回 「医療・環境衛生」

日時 3/14 月 15:00～16:20

※申込締切：3/8 15:00

方式 オンライン

定員 各回100名程度

受講料 1,100円(税込)/回、一括4,000円(税込)

※後援団体の会員を除く

申込・詳細 <https://www.kyodai-original.co.jp/?p=14518>



主催：京大オリジナル株式会社

共催：京都大学ASEAN拠点、京都大学産官学連携本部

後援：一般財団法人日本インドネシア協会、一般社団法人日タイ経済協力協会

登壇者



ヤルナゾフ
デミターサポフ
京都大学 大学院
総合生存学館 教授



蘆田 隆一
京都大学 大学院
工学研究科 講師



北島 薫
京都大学 大学院
農学研究科 教授



速水 洋子
京都大学
東南アジア地域研究
研究所 教授



安里 和晃
京都大学 大学院
文学研究科 准教授



ロペズ マリオ
京都大学
東南アジア地域研究
研究所 准教授



三重野 文晴
京都大学
東南アジア地域研究
研究所 教授



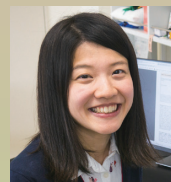
岡本 正明
京都大学
東南アジア地域研究
研究所 教授



馬場 弘樹
京都大学
東南アジア地域研究
研究所 特定助教



原田 英典
京都大学 大学院
アジア・アフリカ地域研究
研究科 准教授



山田 千佳
京都大学
東南アジア地域研究
研究所 特定研究員



山崎 渉
京都大学
東南アジア地域
研究研究所 教授

第1回「カーボン・ニュートラル」 2/24(木) 15:00～16:20

「ASEANにおける再生可能エネルギーへの転換～ベトナムとインドネシアを中心に～」

ヤルナゾフ ディミターサボフ(京都大学 大学院 総合生存学館 教授)

新興国及び発展途上国はなぜ再生可能なエネルギーを促進しているのか、また、一部の国では再生可能エネルギーの促進がうまく行っているが、他の国ではうまく行っていないのはなぜなのかについてお話してみたいと思います。具体的に、2015年～2019年にインドネシアとベトナムで行った現地調査の結果を踏まえて、インドネシアとベトナムにおける再生可能なエネルギー開発の類似点・相違点について発表させていただければと思います。▶#再生可能エネルギー #新興国、発展途上国 #制度学派経済学、政治経済学 #再生可能エネルギー促進政策 #経済開発

「バイオマスの高効率利用」

蘆田隆一(京都大学 大学院 工学研究科 講師)

バイオマスを高効率に利用すべく開発を進めている、①従来の火力発電で用いられている熱機関を利用しない新規高効率バイオマス発電法、および、②現在石油や石炭から製造している有用物質をバイオマスから高効率に製造する方法を紹介する。また、それらの方法をバイオマス資源が比較的豊富な東南アジア諸国へ展開するための取り組みについて紹介する。▶#化学工学 #反応工学 #炭素系資源転換工学

「カーボン・ニュートラルとSDGs達成の鍵としての熱帯林」

北島薫(京都大学 大学院 農学研究科 教授)

化石燃料利用による温室効果ガスの排出が地球温暖化を加速し、極端気象現象や災害を次々と引き起こしている。そこでカーボン・ニュートラルの達成が重要となるが、そのためには、生物多様性の保全、持続的な水や土壌の利用などの複数のSDGsに貢献する熱帯林の保全と再生を促す国際協力が鍵と言える。マダガスカル北西部乾燥林での国際協力プロジェクトの事例も紹介して、熱帯林破壊の現状とその原因についても考察したい。▶#生態学 #植物学 #森林科学 #生物多様性 #生理生態学 #生態系生態学 #熱帯林

第2回「高齢化社会」 2/28(月) 15:00～16:20

「タイにおける高齢化とケア」

速水洋子(京都大学 東南アジア地域研究研究所 教授)

東南アジア諸国は高齢化の進んだアジア域内や欧米の国々に介護ケアの労働者を送り出しているが、当該諸国自体でも既に高齢化が進みつつある。家族ケアの規範はいまだに強いとはいえ、少子化が進む中で家族ケアだけでは賄いきれなくなってきている。現在高齢者にとって、どのようなケアの選択肢があるのか、概況をおさえつつ、タイにおける老いの経験、日本人高齢者のロングステイなどにも言及する。▶#東南アジア #文化人類学 #ジェンダー #エスニシティ #宗教 #老いとケア

「高齢者ケアのグローバル化」

安里和晃(京都大学 大学院 文学研究科 准教授)

経済成長と高齢化が同時に進展するアジア諸国では、労働とケアの確保が社会的な課題となっている。多くの国では外国人労働者をリクルートして人材を確保するほか、家事・介護従事者の雇用を通じてケア人材を確保しつつ女性や高齢者の労働力化が進められている。家族主義の様相は様々な形で進展している。▶#人口構成の変化と人の移動に関する研究(家事、介護、看護、結婚) #社会統合政策(多文化共生) #移民と教育 #アジア社会論 #福祉レジーム論(特にアジア諸国) #高齢者ケア政策 #新型コロナウイルス

「『介護移民時代』とどのように向き合うべきか～コロナ禍で介護現場を支えるアジア出身の移住労働者の現状を事例に～」

ロペズ マリオ(京都大学 東南アジア地域研究研究所 准教授)

近年、日本介護業界で深刻化する人手不足緩和のため、ASEAN出身の介護スタッフが増え「介護移民時代」に突入した。しかし2020年に発生した新型コロナウイルスは日本各地の病院や介護施設に影響を与えた。海外人材への依存度が増す中、多くの医療・介護施設にどのような影響があったか?コロナ禍がもたらした看護・介護移民のケアの実践や日本人の同僚の事例を取り上げるとともに、今後「介護移民」は日本社会の多様性に繋がるか発表する。▶#文化人類学 #介護移民 #少子高齢化 #東南アジア #外国人受入対策

第3回「デジタル化とその影響」 3/7(月) 15:00～16:20

「ASEANの金融デジタル化と金融包摂」

三重野文晴(京都大学 東南アジア地域研究研究所 教授)

急速に進むアジア途上国の金融セクターのデジタル化と新業態の登場を鳥瞰し、それがもたらす途上国の金融深化の可能性について考えます。従来の商業銀行や農業金融にあった課題が、金融デジタル化によってどのように克服されるか、その担い手は誰か、特に貧困層や農村世帯の金融包摂の問題に焦点をあててお話しします。▶#経済学 #開発金融論 #東南アジア経済 #経済発展論

「ASEANにおけるスマートシティの乱立と米中覇権対立」

岡本正明(京都大学 東南アジア地域研究研究所 教授)

ASEAN諸国は、デジタル化、都市化が進み、急速に社会変容を引き起こしている。そして、このデジタル化と都市化を結びつけるものとして、スマートシティ構想がASEAN各国、そしてASEANでブームを引き起こしており、だからこそ、米中の冷戦状況とも言えるなかで、主要国も積極的に支援に乗り出し始めている。この発表では、こうしたスマートシティの現状を踏まえた後、スマートシティが持つ政治性を読み解きたい。▶#地域研究 #政治学

「ASEAN諸国のデータ取得の現状と都市研究への応用」

馬場弘樹(京都大学 東南アジア地域研究研究所 特定助教)

近年、多種多様なデータがウェブサイトを通して利用可能になっています。ASEAN諸国も例外でなく、公的統計から民間企業の提供するデータまで、研究室に居ながら多くの情報を得られるようになりました。それでも、データ取得には限界があり、一部は現地調査などで補完する必要があります。そこで、本報告は現状でどのようなデジタルデータを得られ、どのように応用できるのかについて、タイでの分析結果を踏まえてお伝えします。▶#都市計画 #GIS #不動産 #Walkability #空き家 #ビッグデータ

第4回「医療・環境衛生」 3/14(月) 15:00～16:20

「DXを活用した小規模分散型の仕組みと水・衛生」

原田英典(京都大学 大学院 アジア・アフリカ地域研究研究所 准教授)

ASEAN地域では都市化が進む一方、都市衛生インフラや水質監視の整備は遅れ、し尿の投棄や未処理排水の排出は、水質汚濁や水系感染症、さらには温室効果ガスの発生にもつながっている。インフラ整備にはまだ時間がかかる中、DXを活用した小規模分散型の仕組みをうまく活用すれば、健全な水・衛生の実現に大きく貢献できる可能性がある。本発表では、ベトナムおよびミャンマーでのこうしたアプローチの事例について紹介する。▶#水と衛生 #水環境 #水質汚濁 #下痢 #物質循環 #DX

「服用した医薬品はどこに行く? 下水からヒトと環境の健康を考える」

山田千佳(京都大学 東南アジア地域研究研究所 特定研究員)

服用した医薬品は体外に排泄された後、下水へと流れます。下水中の医薬品成分を調べることで、人々の健康状態を知るヒントが得られます。これは下水疫学と呼ばれ、違法薬物使用状況を知るために開発され、感染症分野にも応用されています。また、下水が流れ着くのは自然界です。河川や海水に含まれる医薬品成分とその生態系への影響が研究されています。本発表では東南アジアでの下水を用いた研究動向について概説します。▶#下水疫学 #医薬品 #薬物政策 #水圏生態系 #フィリピン #インドネシア

「新型コロナウイルス/動物感染症の高感度簡易検出法の開発～ASEANと日本での実践～」

山崎渉(京都大学 東南アジア地域研究研究所 教授)

グローバル化の進展に伴い、ヒトと動物の感染症の世界流行が加速しています。流行制御のためには、環境中(水や食品も含む)における病原体の動態解明は重要ですが、ほとんど手付かずのままです。(例えば新型コロナウイルスは環境中のどこに潜んでいるのでしょうか?)高感度かつ迅速な検査法を開発し、その解明を図っています。簡易で安価な検査法の開発に努めています。海外(特にASEAN)と日本で性能評価をしています。▶#公衆衛生 #水・食品 #動物感染症 #新型コロナウイルス #グローバルイノベーション

お問合せ

京大オリジナル株式会社 コンサルティング事業部 TEL:075-753-7765 E-mail:event1@kyodai-original.co.jp